瞻仰尊顔

瞻仰尊顔（せんごうそんげん）…法華経の一節。お人柄を敬い慕い仰ぐこと

写真・文　福田徳衍

「あとみよ　そわか」

「あとみよ　そわか」

お経の文言ではない。明治の文学者で第一回文化勲章の幸田露伴が口癖のおまじないだった。

「もういいと思っても、もう一度、呪文を唱えて見直しなさい」

露伴の娘の幸田文さんが14才で雑巾掛けやはたき、箒の扱い方など掃除の稽古をつけられたと『父　こんなこと』（新潮文庫）に記している。

大のつく露伴ファンだった私の父は、寺の本堂の雑巾掛けからまるごと本の記述通りに仕込みたかったらしい。

「バケツの水は6分目、雑巾をゆすぐにはまず水を包むようにして」

「バケツのふちに沿って絞った手を拭う」

が、生半可なやんちゃではなかった私だったから、万事半分は聞いていない。しかし、弟子は跡取り息子のに「あとみよ　そわか」と気合いを掛けられた。私しか居ないから、本堂の濡れ縁の雑巾掛けするたび

掃除機では部屋、出入り口のカマチの隅々まで掃除は行き届かない。いまになっても拙宅の雑巾掛けは私の役目になっている（家族は眉をひそめている…）。父の仕込みが身に染み込んでいるらしい。

障子にはたきを掛ける、箒ではいたホコリを左手でほとほと叩くなどの力加減に年寄りはやかましかった。露伴が娘の前でやって見せたはたき遣いや雑巾がけは歌舞伎の所作事を見ているような見事さだったと記述している。が、きょうび、家庭からははたきや箒は姿を消したとみえる。

「あとみよ　そわか」はむしろ新聞社勤めのころ、ひと仕事終えたあとに念仏のように思い返していた。主に『週刊朝日』に携わっていたが、締め切りを過ぎ、出稿、印刷、製本され、発売直後に読者や関係者から誤りの指摘や抗議を受けると、思わず首をすくめ口ずさむ。

創刊101年目を迎えたその週刊誌も今月、休刊する。ほんのちょっとだが関わった18年間の反省を込めて。

写真は1980年代、東塔大書院入り口にそびえていた老杉だ。今では、大樹の切り株も残っていない。

国宝殿「比叡山に龍が舞う」奉納記念展覧会

4月24日(月)～5月14日(日)まで開催

平和へのメッセージ、「夢がかなう」

開催を喜ぶ塩谷氏（右から３人目）

龍を画題に活動を続ける水墨画家塩谷榮一氏の奉納記念展覧会「比叡山に龍が舞う」が、比叡山国宝殿で始まった。

これは、塩谷氏がコロナ禍の3年間で描き上げた龍の絵画作品を約30点あまり展覧するもので、同時に4点にもなる「一隅を照らす三体の龍」と題した作品が延暦寺に奉納された。

「三」は仏教において重要な意味を持つ数字とされ、その上で安定の概念を持つことから、奉納された三つの作品は、コロナや戦争で不安定になっている世の中の安定への希望を表し、平和へのメッセージが込められている。

展覧会を前に23日午後2時30分より内覧会が執り行われ、多くの関係者がお祝いに駆けつけた。午前中に行われた祝賀会において塩谷氏は「子供の頃に安土市から西の方角の比叡山をいつも拝んでいた。比叡山に龍の絵を奉納するのが夢だった。夢がかなってありがたい」と感謝の気持ちを語った。

（國松善次実行委員長）主催のもと、4月24日より比叡山国宝殿へは別途拝観料が必要です）。

展覧会は国宝殿3階研修室にて5月14日（日）まで開催される。

（国宝殿へは別途拝観料が必要です）。

元三大師堂

慈恵大師御影供を厳修

春の横川に声明響く

比叡の峰の中でも特に静寂の地となる横川の元三大師堂（四季講堂）では、春の陽光で新緑の映える4月18日、山田能裕探題大僧正を導師に、慈恵大師御影供が営まれた。

法要は、比叡山延暦寺「中興の祖」と称される第18世天台座主慈恵（元三）大師良源（912～985）への報恩と感謝の誠を捧げるもので、午前11時15分から勤められた。

唐代の献茶を再現

法要では先ず信徒代表らが手ずから餅や果物などの供物をお供えする伝供が行われ、その後延暦寺僧侶により約1時間をかけて、大師の生涯を讃える声明が独特の拍子と旋律で唱えられた＝写真。

法要中には「日本最古のお茶伝承プロジェクト」（発起人・堀井美香氏）により、山麓の里坊にて摘まれた茶葉を中国唐時代の製法を用いて再現した「坂本餅茶」が奉納され、唐風の朝服に身を包んだ女性により大師へと献じられた。

時報　俳壇・歌壇

俳壇

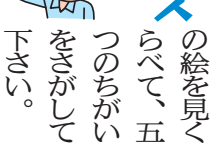
・灌仏の乾く間のなき一日かな
　―大分・廣瀬邦照
・旧節句までと重ねて兜出し
　―山形・後藤雀台子
・三千号記す賞状卒業す
　―滋賀・山村修三
・検定日さくら満開兆し佳し
　―滋賀・堀井千恵子
・待ち焦がれ根本中堂薫風
　―滋賀・八里舟月

歌壇

・しとど降る雨にも桜は王道か退院の日は早まると聞く
　―茨城・ひまわり
・早朝に比叡の峰より見下ろせば光り輝く琵琶湖の湖面
　―滋賀・中井和代
・青もみじまみえし比叡水筒の音をリズムに足取り軽く
　―滋賀・恵弘
・先人の植えたる桜満開に御詠歌唱える花まつり
　―埼玉・吉敷光代

（皆さまからのご投句お待ちしております。文字は楷書ではっきり書いていただかないと掲載できません）

Qイズ



下の二つの絵を見くらべて、五つのちがいをさがして下さい。

三名の方に記念品をお送りします。

【解答送り先】〒520－0116
大津市坂本本町4220
比叡山延暦寺内
「比叡山時報クイズ係」
※令和5年5月31日締切りです。

ハガキに答えと時報に対するご意見・ご感想を必ず書いてお送り下さい。

当選者の発表は記念品の発送をもってかえさせていただきます。